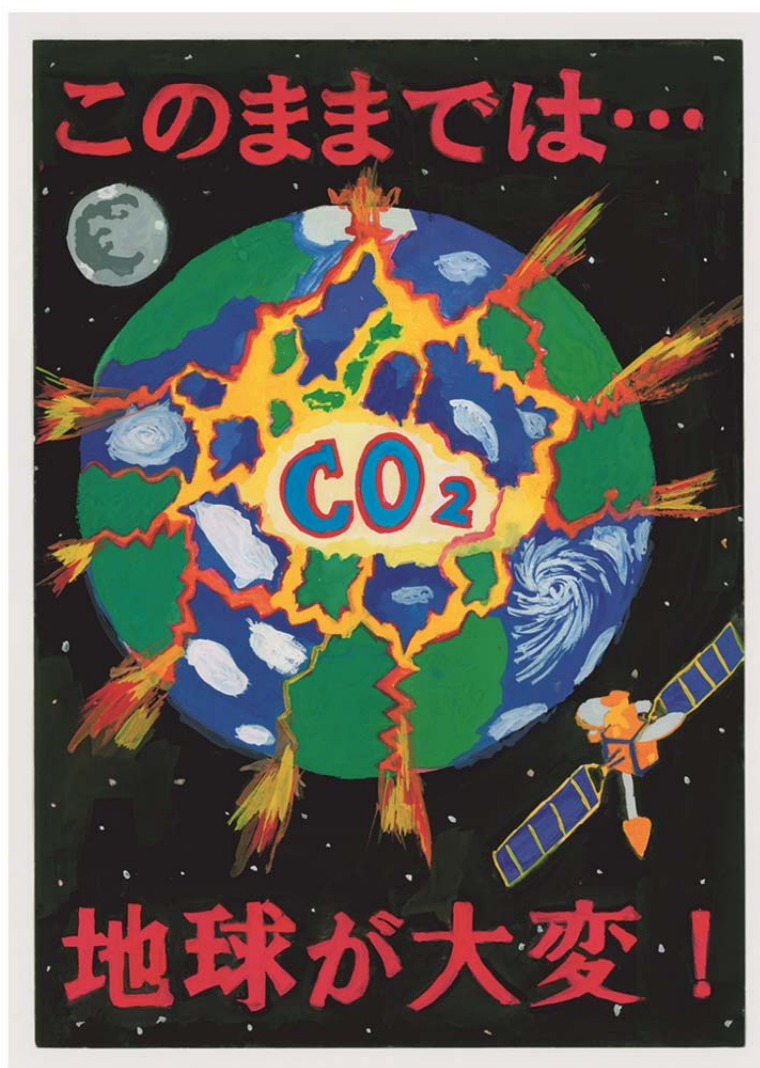


第2章 計画の理念・目標



第1節 基本理念

第2節 望ましい環境共生都市ビジョン

第3節 基本目標

第1節 基本理念

文京区は、暮らしの中での身近な環境への取組から、地球的な規模の環境への取組までを地域一丸となって推進します。また、区の重要な特性である「歴史・文化」、「水」、「緑」を大切にするとともに、区民が安全・快適に暮らすことができるよう、環境施策を総合的に取り組みます。

1. 環境問題への取組は、身近なものから地球全体を意識して、地域一丸となって進めます

環境問題は地球温暖化やオゾン層破壊などの地球全体に影響を及ぼすものもあることから、ひとり一人の行動から、その影響の広がりを意識することが不可欠となっています。

文京区民として、また地球の一員として、環境を地球規模で考えるなど広い視野をもちながら、身近なところからできることを取り組み、それぞれの役割を果たしながら協働して、自然との共生や持続的発展が可能な社会づくりを目指します。

2. 文京区の環境を構成する重要な歴史・文化、水、緑を、大切に守り、育てます

環境を構成する要素は幅が広く、水や空気、動植物だけでなく、それらが積み重なってつくられるもの、すなわち地域の文化や歴史、街並みなども環境のひとつといえます。暮らしの中で重要な、「ゆとり」、「うるおい」、「やすらぎ」などの心の豊かさは、物質的なものだけでなく、環境もそれを生み出す大きな役割を担っています。

そこで、文京区では、区の環境における特性といえる「歴史・文化」、「水」、「緑」を中心に据えて、より豊かな環境をつくります。

3. 環境の保全・創造には、区民が健康で安全・快適に暮らし続けられるよう、総合的に取り組みます

環境を保全・創造するためには、多様な方法がありますが、整備・設備導入などのハード面と活動・仕組みづくりなどのソフト面、先進的な技術と昔から確立されている技術、区民・事業者・行政などのあらゆる主体による取組を、これまでの実績や課題を踏まえ、相互に連携させて総合的に取り組みます。

第2節

望ましい環境共生都市ビジョン

本計画は、区の最上位計画である文京区基本構想における将来都市像「歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち『文の京』」の実現を環境等の側面から担う計画となります。

そのため、前節における基本理念に基づき、10年後に到達していることが望ましい文京区のまちの姿を「環境共生都市ビジョン」として設定します。

ひとつが^{ふみ}つな^{みやこ}げる文の京の誇れる“あした” ～環境共生都市ぶんきょう～



文京区的环境における特性といえる「歴史・文化」、「水」、「緑」を軸として、「ひと（区民など）」が、環境共生都市として誇れる「文の京」を、未来につなげていくまちを目指します。

第3節 基本目標

前節の環境共生都市ビジョンを達成するため、環境に関する主要分野である「低炭素」、「資源循環」、「快適・安全」、「自然共生・歴史・文化」の4分野と、これらを分野横断的に支える主体間の連携、仕組み・制度などの取組の基礎となる「連携・基盤づくり」の1分野からなる5つの基本目標を設定しました。

1. 未来へつなぐ脱炭素のまち ~CO₂削減で地球温暖化防止~
【低炭素】

地球温暖化への意識が向上し、地域一丸となって、省エネルギーの実践、再生可能エネルギーの導入などの取組が推進されるとともに、水素*やZEH*・ZEB*などの先進的な技術も視野に入れ、COP21*で示された日本の新たな温室効果ガス排出量の削減目標達成に貢献することで、低炭素のまち実現に向けて着実な歩みを進めています。

2. 資源を有効利用し、ごみの減量に取り組むまち
【資源循環】

リデュース(発生抑制)とリユース(再使用)の2Rがリサイクル(再資源化)に先立って推進されるとともに、公衆衛生向上のための廃棄物の収集運搬体制や効率的なリサイクル清掃事業などの適切な清掃サービスにより、2Rが区民のライフスタイルに定着し、将来的にはごみの排出を限りなく減少させることで循環型社会を実現しています。

3. 健康で快適に暮らせる安全・安心なまち
【快適・安全】

身近な環境が守られるだけでなく、坂道や庭園、歴史・文化的建造物、公園などの様々な区の景観特性を活かし、地域の魅力あふれる「文京区らしい景観」づくりを行うとともに、自然災害などにも備えることで、だれもが心地よく、安全で安心に暮らすことのできるまちを実現しています。

4. 自然とともに暮らし、歴史・文化の息吹を大切に受け継ぐまち
【自然共生・歴史・文化】

身近な生きものから、いのちの大切さや多様な生きものと共に暮らしていくことへの意識が芽生えるとともに、区の特性である緑、水、歴史・文化的な環境を大切にし、文京区らしい魅力を向上させながら、次の世代につなげるまちを実現しています。

5. みんなが一体となって環境を守り、育てるまち
【連携・基盤づくり】

環境への意識が高まり、あらゆる世代が環境を学び、多くの担い手が育つことで、さまざまな主体の連携・協働による取組が積極的に進められ、みんなが一体となって環境を保全し、育てるまちを実現しています。

* 水素:これまで水素は主に工業原料として用いられてきましたが、新たなエネルギーとして利用する動きがあります。水素と酸素を反応させて電気を作り出すという原理を利用して、家庭用燃料電池や燃料電池自動車が開発され、既に市場に出回っています。
* ZEH:ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略で、住宅の高断熱化と高効率設備によりできる限りの省エネルギーに努め、太陽光発電等によりエネルギーを創ることで、年間で消費するエネルギー量がゼロまたはおおむねゼロとなる住宅のことをいいます。
* ZEB:ネット・ゼロ・エネルギー・ビルスの略で、建築物の高断熱化と高効率設備によりできる限りの省エネルギーに努め、太陽光発電等によりエネルギーを創ることで、年間で消費するエネルギー量がゼロまたはおおむねゼロとなる建築物のことをいいます。
* COP21:Conference of the Parties の略で、国連の気候変動枠組条約に参加する国々の21回目の会議のことをいいます。2020年以降の気候変動対策の新たな国際的枠組みとなる「パリ協定」が採択され、2016年11月に発効しました。

コラム1 気候変動への国際的な動きが活発化しています

■気候変動に向けた動き

2015年11～12月の国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）において、2020年以降の気候変動対策の新たな国際的枠組みとなる「パリ協定」が採択され、2016年11月に発効しました。続いてマラケシュで開催された第22回締約国会議（COP22）では、パリ協定の詳細なルールづくりについて話し合わせ、今後国際的な気候変動に対する動きが一層加速していくと考えられます。

■パリ協定の概要

- ・世界共通の長期目標として、「産業革命以前に比べて平均気温上昇を2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること」を決定
- ・主要排出国を含むすべての国が削減目標を5年ごとに提出・更新
- ・適応の長期目標の設定、各国の適応計画プロセスや行動の実施、適応報告書の提出と定期的更新

日本は温室効果ガスの排出量を2013年度比で2030年度までに26%削減する目標を新たに掲げており、2016年5月に閣議決定した「地球温暖化対策計画」でもZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）・ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）のほか、LED等の高効率照明（2030年度までに100%）などの積極的な取組が示されました。

なお、文京区では2014年度に見直した「文京区地球温暖化対策地域推進計画」において、二酸化炭素を2005年度比で2019年度までに総量14%削減する目標（家庭部門：世帯あたり21%、業務部門：床面積100m²あたり28%）を掲げています。現在この目標達成に向けて取組を進めており、将来的にはこれまでの低炭素から、さらに踏み込んだ「脱炭素のまち」に向けて一層の取組を進めることとなります。

■気候変動により日本でも想定される影響

地球温暖化は、化石燃料などの大量消費により大気圏に二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスが蓄積・増加することで地球表面の温度が上昇する現象です。温室効果ガスが排出され続け温度が上昇することで、地球規模での気候変動をもたらすと言われていています。

これは、日本においてもさまざまな影響が起きると予測されており、例えば、大雨や強い台風に見舞われる機会が増えたり、熱中症患者が増加したり、蚊を媒介とする感染症が拡大することなどが挙げられます。



出典)環境省「気候変動影響レポート」

